

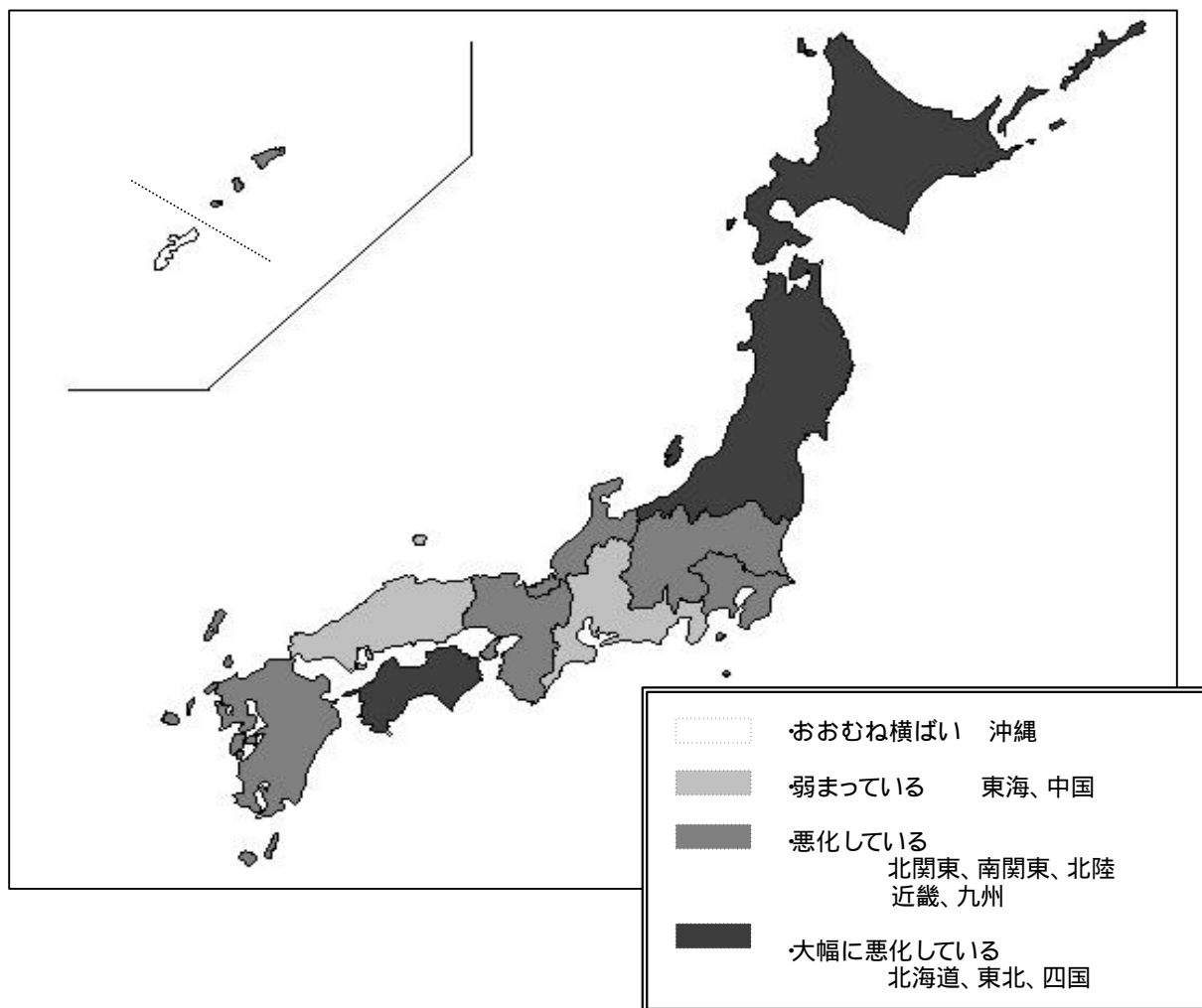
地 域 経 済 動 向

平成 13 年 8 月 23 日

内閣府政策統括官
(経済財政・景気判断・政策分析担当)

1. 地域経済の概況

(1) 各地域の景況感



(2) 前回調査からの比較

総括表現

各地域の表現	北海道	東北	北関東	南関東	東海	北陸	近畿	中国	四国	九州	沖縄
緩やかな改善が続いている											
おむね横ばい											
足踏み状態にある											
弱含んでいる											
弱まっている											
悪化している											
大幅に悪化している											

(備考) は、今回調査の判断。
 は、前回調査の判断。 のない地域は、前回の判断を変更していない地域。

～ 前回調査からの比較～

上方修正・・・なし

下方修正・・・全 11 地域（北海道、東北、北関東、南関東、東海、北陸、近畿、中国、四国、九州、沖縄）

今回調査の特色

おおむね横ばいの状態にある沖縄

沖縄：主力の観光は増加傾向で、住宅建設も増加傾向にあるものの、個人消費がおおむね横ばいの状態にあり、設備投資の先行きについても大幅な減少が見込まれている。

弱まっている東海、中国

東海：個人消費がおおむね横ばいの状態にあり、住宅建設が減少し、鉱工業生産がさらに減少している。

中国：鉱工業生産がさらに減少し、個人消費がやや弱含んでおり、また、雇用情勢が厳しい状況となっている。

悪化している北関東、南関東、北陸、近畿、九州

北関東：鉱工業生産が大幅に減少し、住宅建設は緩やかに減少し、雇用情勢は厳しい状況となっている。

南関東：鉱工業生産が大幅に減少し、住宅建設は減少し、雇用情勢はやや厳しい状況となっている。

北陸：設備投資の先行きについて増加が見込まれるものの、雇用情勢が厳しい状況にあり、鉱工業生産が大幅に減少している。

近畿：鉱工業生産が大幅に減少し、雇用情勢も厳しい状況となっており、また、業況判断が悪化し、設備投資の先行きについても減少が見込まれている。

九州：鉱工業生産は大幅に減少し、設備投資の先行きについても減少が見込まれており、雇用情勢も厳しい状況となっている。

大幅に悪化している北海道、東北、四国

北海道：鉱工業生産が大幅に減少しており、個人消費が弱含んでおり、また、雇用情勢が厳しい状況となっている。

東北：鉱工業生産は大幅に減少し、個人消費はやや弱含んでおり、設備投資の先行きについても大幅な減少が見込まれており、雇用情勢も厳しさを増している。

四国：鉱工業生産がさらに減少し、個人消費は弱含んでおり、雇用情勢も厳しさを増している。

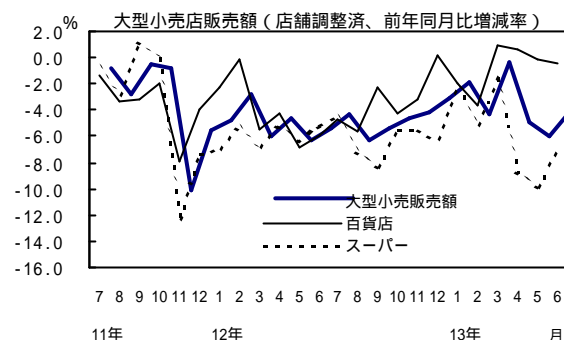
2. 需要の動向

(1) 個人消費は弱含んでいる。

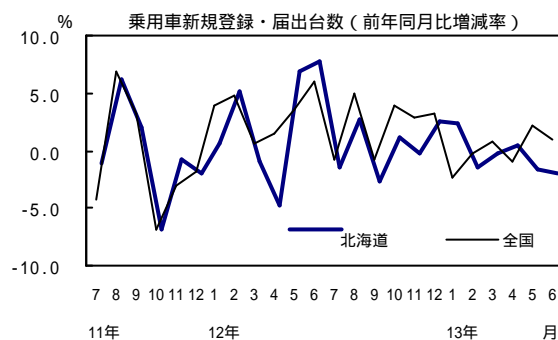
1 大型小売店販売額

百貨店は、札幌そごうの閉店の影響で札幌市内の百貨店は好調に推移しているものの、地方都市の百貨店は落ち込んでいる。既存店では、前年同月比で4～6月期は横ばいであるが、全店舗では10.3%減となっており、減少幅は拡大している。

スーパーは、価格競争や新店舗増加の影響に加え、6月は天候不順により季節衣料の販売が低調であったことなどから、21か月連続で前年を下回っている。



2 乗用車新規登録・届出台数



3 景気ウォッチャー調査（7月調査）[家計動向関連D I（現状判断理由の多数回答）]

売上が落ち込んでいる（商店街、スーパー、住関連専門店等）、客単価が低下している（高級レストラン、スナック）などの理由から「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた一方で、来客数が回復しない（コンビニ、家電量販店）などの理由から「変わらない」とする回答もみられた。

	12年12月	13年1月	2	3	4	5	6	7
現状判断	48.5	42.9	39.4	41.5	42.3	41.6	39.6	36.3
先行き判断	43.6	47.3	46.3	45.9	49.1	48.8	42.4	39.3

（備考）巻末主要指標（9）の備考を参照のこと。

(2) 設備投資の13年度計画は前年度実績を下回っている。

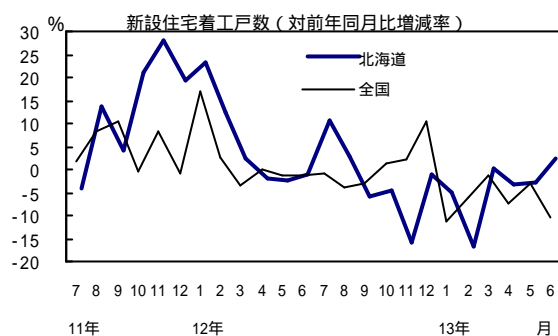
企業短期経済観測調査 [設備投資（6月調査）]（前年度比増減率、単位：％）

	12年度実績	13年度計画
全産業	18.4 (0.9)	13.6 (9.4)
製造業	34.0 (1.5)	7.0 (21.8)
非製造業	11.5 (0.7)	17.1 (3.1)

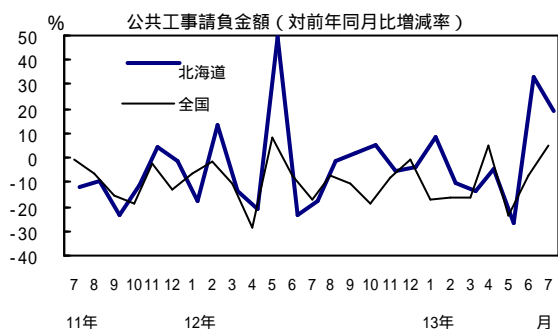
（備考）()は前回（3月）調査比修正率。電気・ガスを除く。

(3) 住宅建設は減少している。

貸家の増加から6月は前年を上回ったものの、持家、分譲が前年を下回っていることなどから、全体で見ると減少している。



(4) 公共投資は前年を下回っている。

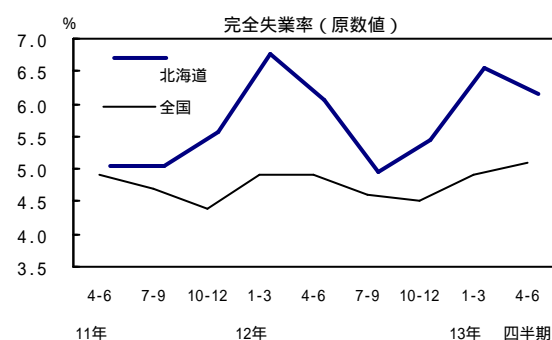
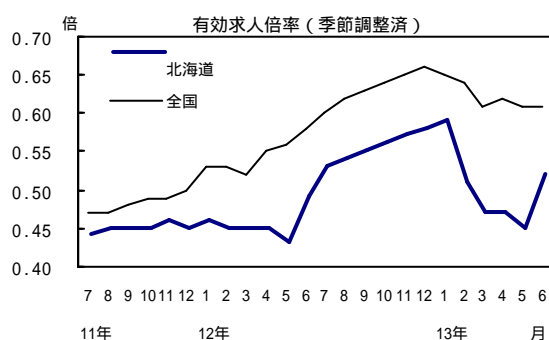


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は厳しい状況となっている。

1 有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は6月に上昇しているものの、完全失業率は前年同期を上回っており、依然として高い水準にある。



2 景気ウォッチャー調査（7月調査）[雇用関連（現状判断理由の多数回答）]

求人広告件数の伸びが鈍化している（求人情報誌製作会社）などの理由から「変わらない」とする回答が多くみられた一方で、在職中の求職者の数が昨年を上回っている（職業安定所）などの理由から「やや悪くなっている」とする回答も多くみられた。

(2) 企業倒産は負債総額が増加している。

旧北海道拓殖銀行系列で道内最大手のリース会社の倒産などにより、5月の倒産企業の負債総額は3,600億円と、単月で過去最大となった。

(前年同期(月)比増減率、単位：%)

	12年7~9月	10~12	13年1~3月	4~6	13年5月	6	7
倒産件数	31.9	12.6	6.2	19.1	30.7	10.3	26.6
負債総額	55.9	22.7	54.2	323.2	748.6	25.8	75.8

景気ウォッチャー調査(7月調査)[合計DI(特徴的な判断理由)]

<現状>

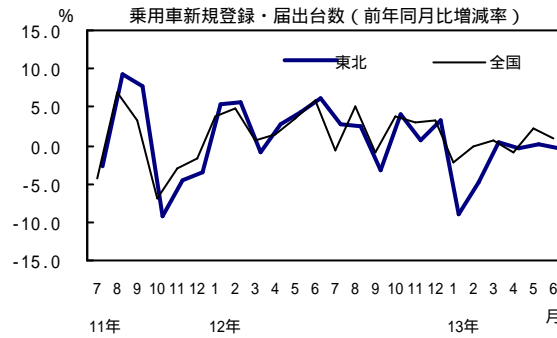
- ・気温が低く雨が多いため、スイカ、アイスクリーム、ドリンクなどの夏物商品の動きが鈍く、買い控えの影響もあり、消費動向は一段と弱まっている(スーパー)
- ・来客数、パッケージツアー等の売上がここ3年間で最低である(旅行代理店)

<先行き>

- ・地元大手企業の倒産や大手ホテルの撤退があり、不況感が強まっている(タクシー運転手)

	12年12月	13年1月	2	3	4	5	6	7
現状判断	48.5	41.9	39.4	41.7	42.9	42.1	39.5	37.4
先行き判断	42.9	47.1	47.2	46.3	49.4	49.2	42.6	39.1

2 乗用車新規登録・届出台数



3 景気ウォッチャー調査（7月調査）[家計動向関連D I（現状判断理由の多数回答）]

来客数が減少している（乗用車販売店、住関連専門店、都市型ホテル等）単価が低下している（スーパー、その他飲食〔そば〕観光型ホテル）などの理由から「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた一方で、客単価が低下している（百貨店、スーパー）などの理由から「変わらない」とする回答もみられた。

	12年12月	13年1月	2	3	4	5	6	7
現状判断	41.0	35.0	34.2	39.9	43.9	41.9	36.7	32.8
先行き判断	43.4	45.3	45.9	42.4	48.3	48.5	39.9	36.6

（備考）巻末主要指標（9）の備考を参照のこと。

（2）設備投資の13年度計画は前年度実績を大幅に下回っている。

企業短期経済観測調査〔設備投資（6月調査）〕

電気機械で増産設備を中止する動きが相次ぎ、
小売では新規出店を抑制する計画にあることなどから、全産業で前年度を下回っている。

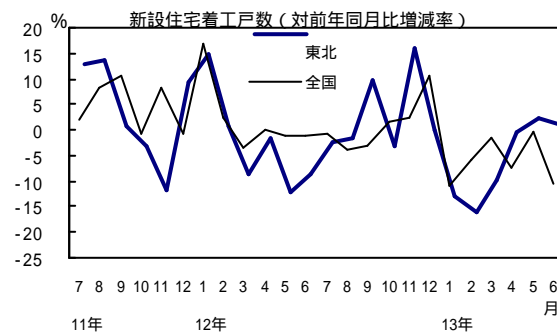
（前年度比増減率、単位：％）

	12年度実績	13年度計画
全産業	3.5(3.2)	24.2(7.0)
製造業	14.2(5.5)	27.2(11.8)
非製造業	9.2(0.6)	19.7(0.3)

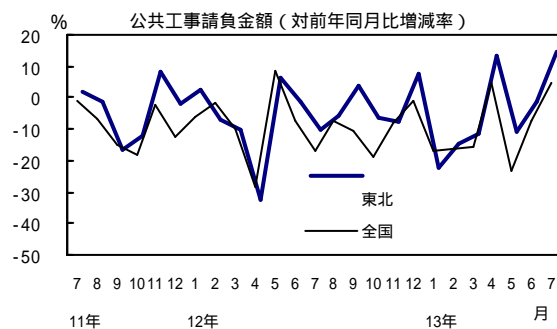
（備考）()は前回(3月)調査比修正率。

（3）住宅建設は減少している。

貸家、分譲でこのところ前年を上回っているものの、ウエイトの高い持家で前年を下回っており、全体では前年を下回っている。



（4）公共投資は前年を下回っている。

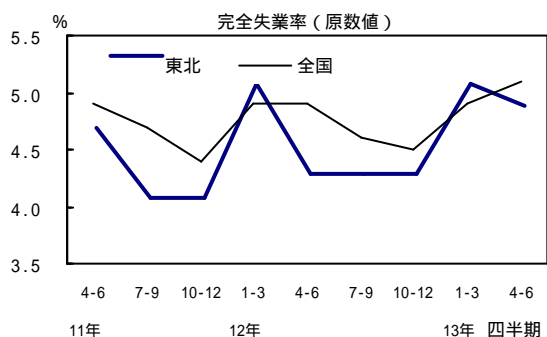
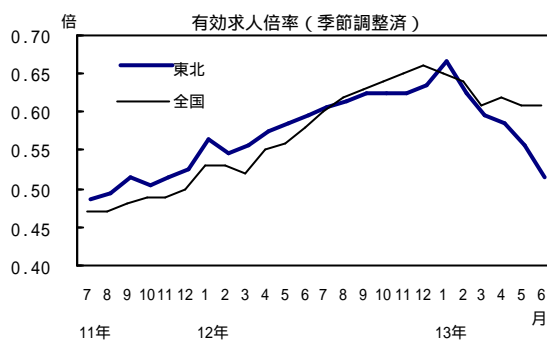


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は厳しさを増している。

1 有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は、大幅に低下している。完全失業率は、前年同期より上昇し高い水準にある。



2 景気ウォッチャー調査 (7月調査) [雇用関連 (現状判断理由の多数回答)]

電気機械器具製造業の求人が減少している (職業安定所)、新規求人が減少に転じている (職業安定所) などの理由から「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた一方で、求人が減少している (人材派遣会社) などの理由から「悪くなっている」とする回答もみられた。

(2) 企業倒産は件数、負債総額ともに増加している。 (前年同期(月)比増減率、単位:%)

	12年7-9月	10-12	13年1-3月	4-6	13年5月	6	7
倒産件数	33.7	11.4	0.8	12.3	12.0	25.7	5.6
負債総額	49.9	0.1	118.4	64.6	44.0	120.5	50.7

景気ウォッチャー調査 (7月調査) [合計DI (特徴的な判断理由)]

<現状>

- ・猛暑のため夏物が好調で中元商戦も順調である (百貨店)
- ・7月に入り求職者が増加しており、特に40歳以上の求職者が目立っている (人材派遣会社)

<先行き>

- ・航空貨物の主要荷主である半導体メーカーや電子機器メーカーの状況が悪化しており、航空貨物は今後ますます減少するとみている (輸送業)

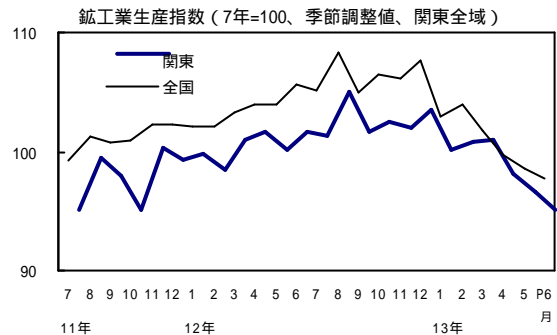
	12年12月	13年1月	2	3	4	5	6	7
現状判断	41.8	36.9	34.8	38.0	39.9	39.1	34.5	31.8
先行き判断	42.4	44.9	44.0	41.1	46.9	46.9	38.3	35.1

(3) 北 関 東

北関東地域では、景気は悪化している。これは、鉱工業生産が大幅に減少しており、住宅建設は緩やかに減少し、雇用情勢は厳しい状況となっているからである。

1. 生産及び企業動向

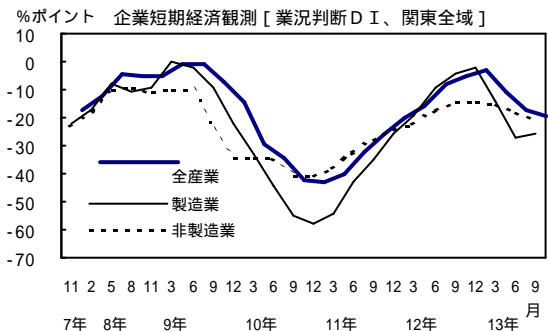
- (1) 鉱工業生産は大幅に減少している。(関東全域)
 電気機械は、IT関連の不振による半導体業界の不況や携帯電話の生産調整などの影響を受けて生産が大幅に減少している。一般機械も、これらに伴う設備投資の減少などの影響を受けて、生産が大幅に減少している。
 輸送機械は、6月に新型車投入効果がみられたものの、既存車が低調であり、おおむね横ばいとなっている。
 北関東地域においては、電気機械が携帯電話、液晶テレビ等、一般機械が半導体製造装置・空気圧機器等を中心とした減少が顕著である。



(備考) Pは速報値。

- (2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が拡大している。

- 企業短期経済観測調査 [業況判断D I (関東全域)]
- 景気ウォッチャー調査 (7月調査)[企業動向関連 (現状判断理由の多数回答)]
 受注の減少で1週間の半分以上が休みという業者がある(電気機械器具製造業)、受注量が減少している(輸送用機械器具製造業)などの理由から「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた一方で、経営不振で倒産した同業者がいくつかある(建設業)などの理由から「変わらない」とする回答も多くみられた。



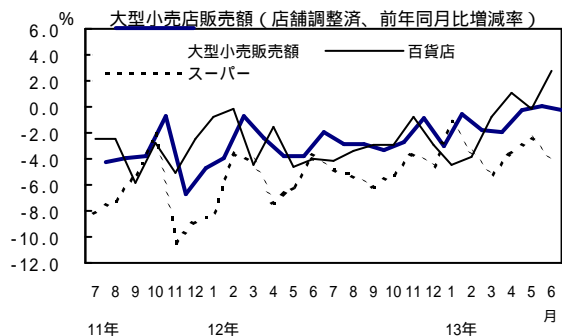
(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。9月は予測

2. 需要の動向

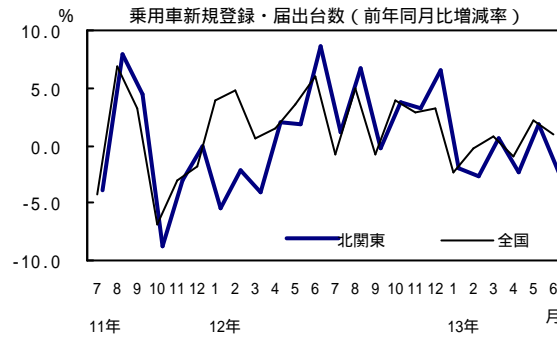
- (1) 個人消費はおおむね横ばいの状態にある。

- 大型小売店販売額

百貨店は、閉鎖した店舗の客の取り込みにより家庭用品や飲食料品の売上が伸び、4月に29か月ぶりに前年の販売額を上回り、6月も下旬の猛暑などにより身の回り品、衣料品等が好調で再び前年を上回った。
 スーパーは、主力の飲食料品や衣料品の低価格志向が続いているため、前年の販売額を下回る状況が続いている。



2 乗用車新規登録・届出台数



3 景気ウォッチャー調査（7月調査）[家計動向関連D I（現状判断理由の多数回答）]

売上が変わらない（百貨店、コンビニ、衣料品専門店）、来客数が変わらない（乗用車販売店、住宅販売会社）などの理由から「変わらない」とする回答が多くみられた一方で、売上が減少している（コンビニ、旅行代理店）などの理由から「やや悪くなっている」とする回答もみられた。

	12年12月	13年1月	2	3	4	5	6	7
現状判断	42.5	43.1	37.3	42.9	44.6	42.0	37.8	31.5
先行き判断	43.4	51.0	46.1	46.9	52.2	48.0	41.1	38.5

（備考）巻末主要指標（9）の備考を参照のこと。

（2）設備投資の13年度計画は前年度実績とほぼ同水準となっている。

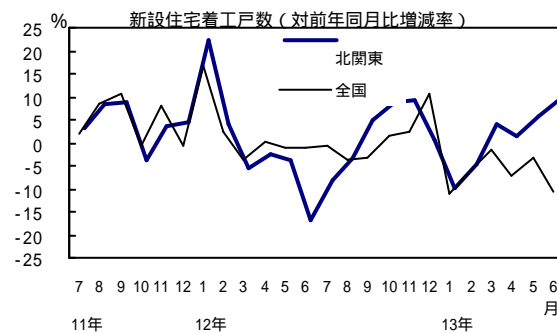
企業短期経済観測調査 [設備投資（6月調査、関東全域）]（前年度比増減率、単位：％）

	12年度実績	13年度計画
全産業	5.1(2.2)	0.6(3.7)
製造業	9.2(3.6)	4.3(0.1)
非製造業	6.6(3.0)	0.2(4.2)

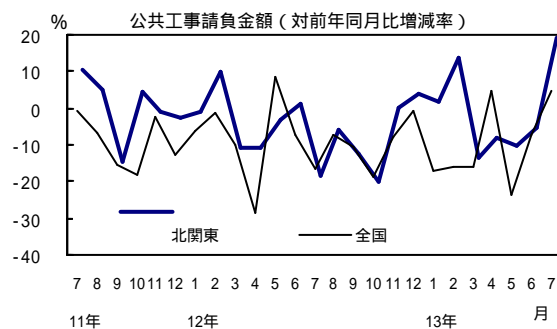
（備考）（ ）は前回（3月）調査比修正率。

（3）住宅建設は緩やかに減少している。

貸家の増加からこのところ増加しているものの、持家、分譲は前年を下回っており全体の基調として緩やかに減少している。



（4）公共投資は前年を下回っている。

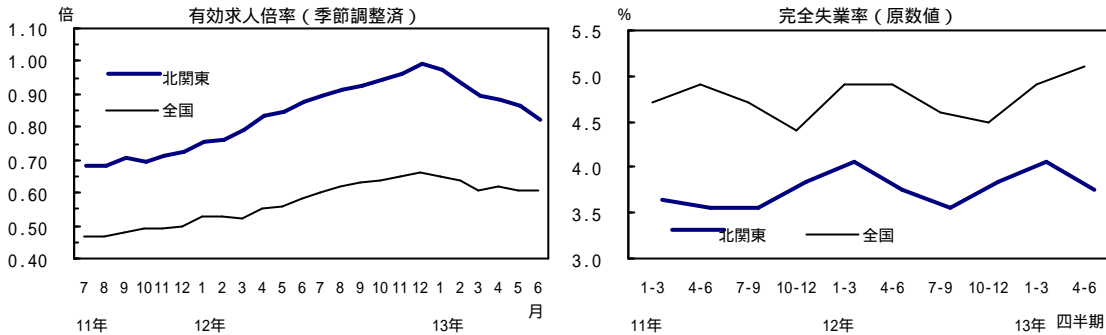


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は厳しい状況となっている。

1 有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前年同期と同水準でやや高い水準にある。



2 景気ウォッチャー調査 (7月調査) [雇用関連 (現状判断理由の多数回答)]

雇用保険受給者が増加している (職業安定所) 企業が雇用削減に動いている (学校 [短期大学]) などの理由から「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた一方で、新規求人が増加しない (職業安定所) などの理由から「変わらない」とする回答もみられた。

(2) 企業倒産は件数、負債総額ともに増加している。 (前年同期 (月) 比増減率、単位: %)

	12年7~9月	10~12	13年1~3月	4~6	13年5月	6	7
倒産件数	26.8	13.5	3.6	3.6	13.5	17.8	37.0
負債総額	149.7	149.8	46.0	28.4	87.4	8.1	13.3

景気ウォッチャー調査 (7月調査) [合計DI (特徴的な判断理由)]

<現状>

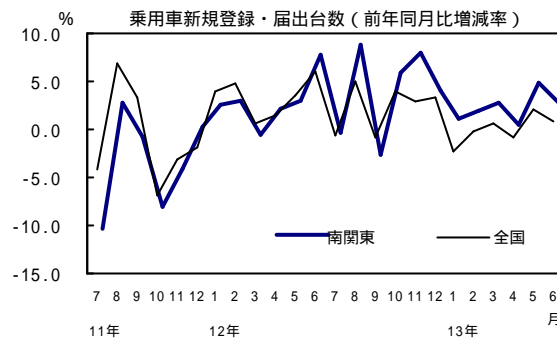
- ・ボーナスシーズンにもかかわらず、期待はずれの来客数、販売実績である (乗用車販売店)
- ・受注量が大変減少しており、納入価格もますます値下げされている (プラスチック製品製造業)

<先行き>

- ・ヒット商品はないが、基礎商品的なものは堅調に動いていく。消費全体はあまり変化しない (スーパー)

	12年12月	13年1月	2	3	4	5	6	7
現状判断	43.3	43.2	39.7	40.4	42.3	37.3	34.1	31.0
先行き判断	43.0	50.3	46.2	44.3	48.8	46.5	40.2	36.3

2 乗用車新規登録・届出台数



3 景気ウォッチャー調査（7月調査）[家計動向関連D I（現状判断理由の多数回答）]

売上が変わらない（百貨店、スーパー、コンビニ等）、来客数が減少している（百貨店、高級レストラン）などの理由から「変わらない」とする回答が多くみられた一方で、売上が減少している（百貨店、スーパー、旅行代理店）などの理由から「やや悪くなっている」とする回答もみられた。

	13年12月	13年1月	2	3	4	5	6	7
現状判断	44.4	44.8	43.4	43.6	41.2	46.9	39.5	38.0
先行き判断	42.4	48.1	45.0	42.3	49.0	47.8	40.3	40.6

（備考）巻末主要指標（9）の備考を参照のこと。

（2）設備投資の13年度計画は前年度実績とほぼ同水準となっている。

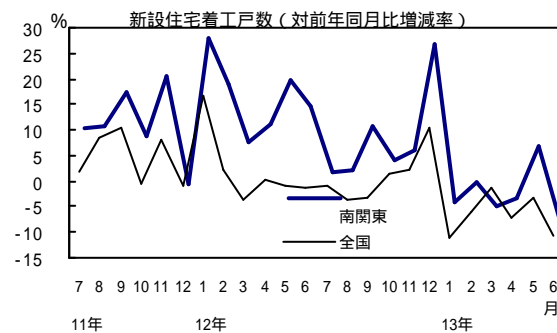
企業短期経済観測調査 [設備投資（6月調査、関東全域）]（前年度比増減率、単位：％）

	12年度実績	13年度計画
全産業	5.1(2.2)	0.6(3.7)
製造業	9.2(3.6)	4.3(0.1)
非製造業	6.6(3.0)	0.2(4.2)

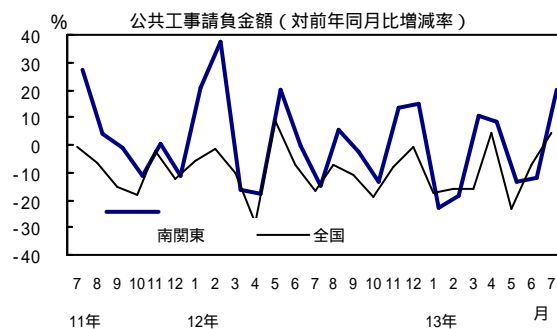
（備考）（ ）は前回（3月）調査比修正率。

（3）住宅建設は減少している。

分譲はわずかに前年を上回っているが、持家、貸家は下回っており、全体では減少している。



（4）公共投資は前年を下回っている。

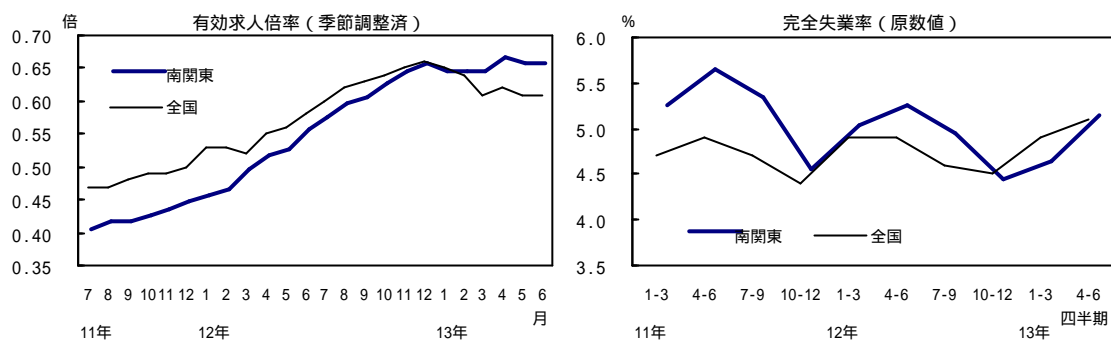


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢はやや厳しい状況となっている。

1 有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率はほぼ横ばいである。完全失業率は前年同期を下回っているが依然高い水準にある。



2 景気ウォッチャー調査 (7月調査) [雇用関連 (現状判断理由の多数回答)]

求人数が減少している (職業安定所) 契約が減少している (人材派遣会社) などの理由から「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた一方で、売上が変わらない (人材派遣会社) などの理由から「変わらない」とする回答もみられた。

(2) 企業倒産は倒産件数が増加している。

(前年同期(月)比増減率 単位: %)

	12年7-9月	10-12	13年1-3月	4-6	13年5月	6	7
倒産件数	13.2	12.2	3.5	8.4	16.7	3.1	4.8
負債総額	163.1	1295.4	51.6	67.5	75.4	74.2	85.7

景気ウォッチャー調査 (7月調査) [合計D I (特徴的な判断理由)]

<現状>

- ・ 猛暑とクリアランスセールが重なり、夏物衣料の動きが非常に良かったが、7月中旬以降は急激に落ち込んでいる (百貨店)
- ・ 製造業、特にIT関連の電気機械製造業の求人数が、常用、パートともに対前年比で大幅に減少しており、3か月前より状況が悪くなっている (職業安定所)

<先行き>

- ・ 今年に入り、来客数の増加や営業日数の拡大等により、客単価の低下をカバーしている状況が続いている (百貨店)

	12年12月	13年1月	2	3	4	5	6	7
現状判断	45.3	44.1	41.2	41.3	39.1	44.7	37.8	35.9
先行き判断	44.5	47.5	43.6	42.0	46.3	47.5	39.7	39.5

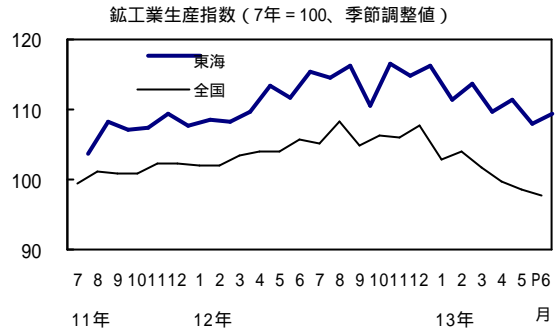
(5) 東海

東海地域では、景気は弱まっている。これは、個人消費がおおむね横ばいの状態にあり、住宅建設が減少し、鉱工業生産がさらに減少しているからである。

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産はさらに減少している。

自動車は6月に増加しているものの、国内販売の一部及び輸出が弱い動きとなっていることからおおむね横ばいとなっている。電気機械は、半導体集積回路の携帯電話、パソコン向け、制御機器の半導体製造装置向け等が減少していることから、弱含みとなっている。一般機械は繊維機械のアジア向け輸出の伸びが鈍化し、金属工作機械の内需が弱含んでいることから、減少している。窯業・土石は、情報通信機器産業における在庫調整から、ファインセラミックスの生産が大幅に減少している。



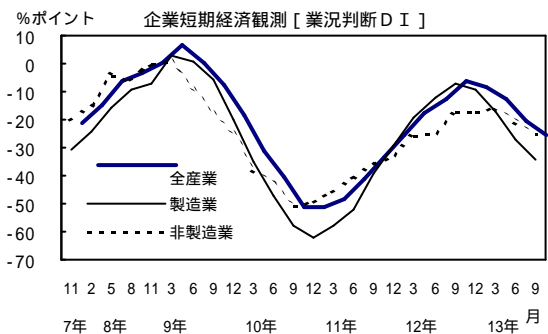
(備考) PIは速報値。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が拡大している。

1 企業短期経済観測調査 [業況判断DI]

2 景気ウォッチャー調査 (7月調査) [企業動向関連 (現状判断理由の多数回答)]

取引先からのコストダウン要請が強い (電気機械器具製造業、輸送用機械器具製造業、輸送業等) 受注量が減少している (パルプ・紙・紙加工品製造業、輸送業) などの理由から「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた一方で、仕事量は依然少ないままである (建設業) などの理由から「変わらない」とする回答もみられた。



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。9月は予測。

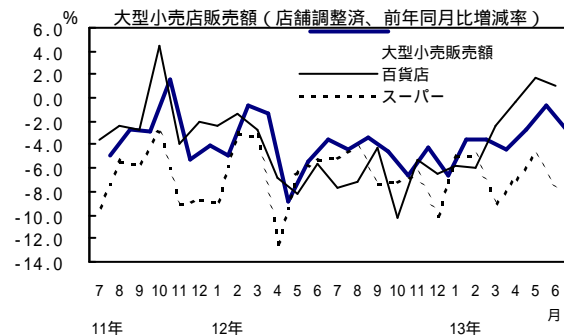
2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいの状態にある。

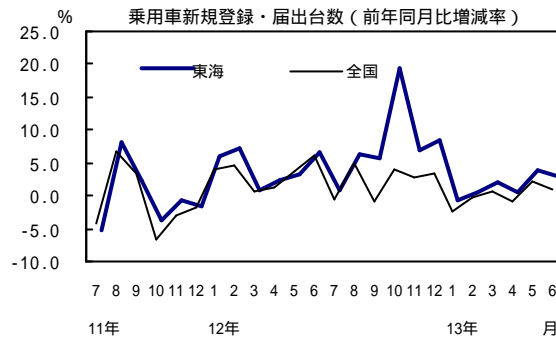
1 大型小売店販売額

百貨店は、低価格傾向や衣料品の不振等が直近も含め続いているものの、母の日関連商品、中元及び季節商品等に動きがあったため、前年を上回る動きもみられた。

スーパーは、衣料品等の不振が直近も含め続いているものの、新規出店効果により、店舗調整前では4～6月期2.8%増となっている。



2 乗用車新規登録・届出台数



3 景気ウォッチャー調査（7月調査）[家計動向関連DI（現状判断理由の多数回答）]

来客数が減少している（一般小売店〔酒〕乗用車販売店、スナック）売上が減少している（家電量販店、コンビニ、観光型ホテル）などの理由から「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた一方で、客単価が低下している（スーパー、住関連専門店）などの理由から「変わらない」とする回答もみられた。

	12年12月	13年1月	2	3	4	5	6	7
現状判断	43.8	42.0	44.7	44.5	45.9	48.2	42.0	33.8
先行き判断	43.1	48.1	49.8	45.3	49.8	52.0	44.3	34.6

（備考）巻末主要指標（9）の備考を参照のこと。

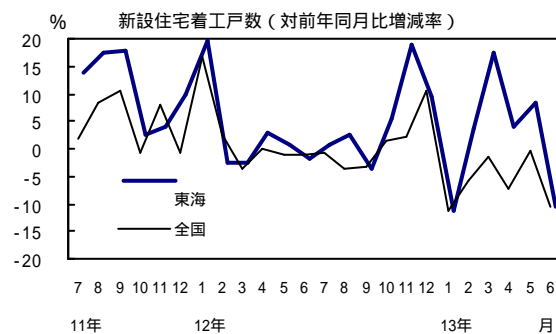
（2）設備投資の13年度計画は前年度実績を下回っている。

企業短期経済観測調査〔設備投資（6月調査）〕（前年度比増減率、単位：％）

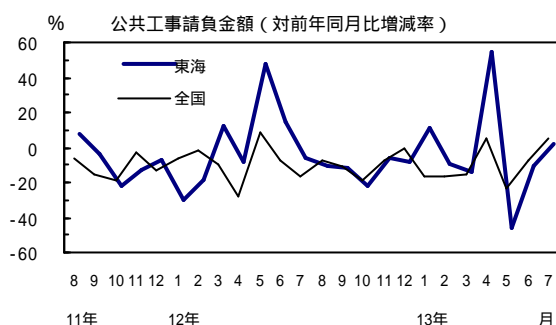
	12年度実績	13年度計画
全産業	4.2	1.8
製造業	1.5	6.7
非製造業	6.2	7.8

（3）住宅建設は減少している。

貸家で前年を上回る動きもみられるが、持家、分譲を中心に減少しているため、減少している。



- (4) 公共投資は前年を下回っている。
中部国際空港関連などの発注から前年を上回る動きもみられる。

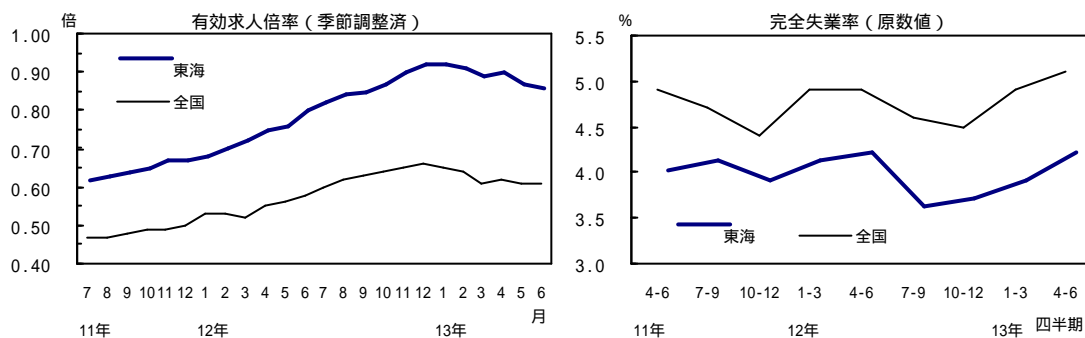


3. 雇用情勢等

- (1) 雇用情勢はやや厳しい状況となっている。

1 有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は求人数が減少し、求職者数が増加しているため、低下している。完全失業率は、前年同期と同水準となっている。



2 景気ウォッチャー調査(7月調査)[雇用関連(現状判断理由の多数回答)]

新規求人数の伸び率が低く、新規求職者数は増加に転じている(職業安定所)、人材派遣の新規受注が減少している(人材派遣会社)などの理由から「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた一方で、パートやアルバイトの求人が前年割れをしている(新聞社[求人広告])などの理由から「悪くなっている」とする回答もみられた。

- (2) 企業倒産は件数が増加している。(前年同期(月)比増減率、単位：%)

	12年7~9月	10~12	13年1~3月	4~6	13年5月	6	7
倒産件数	14.6	1.9	8.3	13.4	35.3	9.0	0.7
負債総額	49.2	134.2	14.3	13.0	29.4	54.5	58.1

景気ウォッチャー調査(7月調査)[合計DI(特徴的な判断理由)]

<現状>

- ・中元は控えめで、単価も低下している(一般小売店[惣菜])
- ・団体旅行や社員旅行が減少し、グループや家族旅行へと移行している(一般小売店[土産])

<先行き>

- ・秋の行楽シーズンの予約が、一般グループ客を中心に対前年同月比で20%程度低下している。最近の傾向として、利用間際の予約が進んでいるとはいえ、このままいくと昨年より5~10%程度業績が落ち込みそうである(観光型ホテル)

	12年12月	13年1月	2	3	4	5	6	7
現状判断	43.9	43.4	44.0	43.6	43.5	45.3	38.9	32.3
先行き判断	43.7	46.6	47.3	44.7	49.5	50.3	43.9	34.0

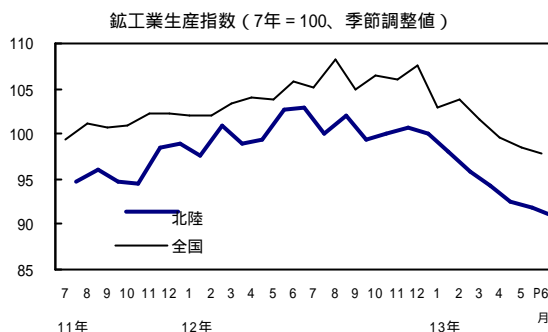
(6) 北 陸

北陸地域では、景気は悪化している。これは、設備投資の先行きについて増加が見込まれるものの、雇用情勢が厳しい状況にあり、鉱工業生産が大幅に減少しているからである。

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は大幅に減少している。

電気機械は携帯電話部品やディスプレイなどの輸出の減少から生産が減少している。一般機械は建設機械の減産が続いており、これまで高操業が続いていた工作機械、繊維機械も受注の減少から、生産が減少に転じている。繊維は、輸出の減少基調が続いており、衣料が輸入品と競合していることから低水準な生産が続いている。金属製品はアルミ建材がビル用で需要が高水準であるものの、住宅用で生産の抑制基調が続いているため、おおむね横ばいで推移している。



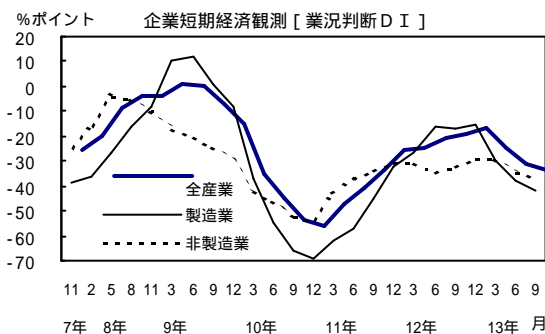
(備考) PIは速報値。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が拡大している。

1 企業短期経済観測調査 [業況判断DI]

2 景気ウォッチャー調査 (7月調査) [企業動向関連 (現状判断理由の多数回答)]

売上が前年同月を下回っている (化学工業)、単価が低迷している (プラスチック製品製造業) などの理由から「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた一方で、廃業や倒産の増加傾向が続いている (精密機械器具製造業) などの理由から「変わらない」とする回答もみられた。



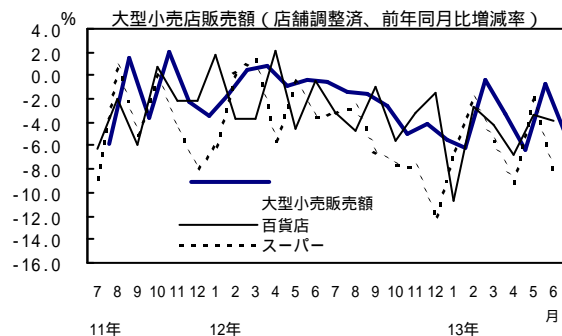
(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。9月は予測。

2. 需要の動向

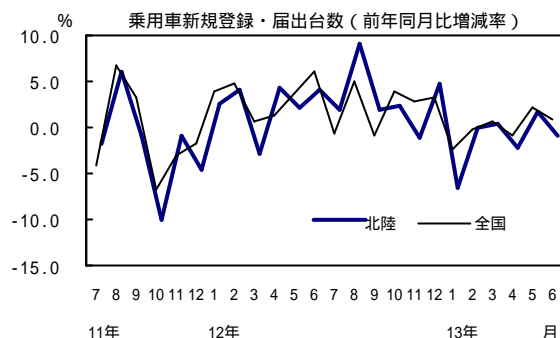
(1) 個人消費はおおむね横ばいの状態にある。

1 大型小売店販売額

百貨店は、中元が前年並みであり、クリアランスは、低単価商品が中心であったこと等から前年を下回った。直近では高額品の売行きは良いものの、全般的に低価格傾向が進んでいる。スーパーは、衣料品等の不振が直近も含め続いているものの、新規出店効果から、店舗調整前は、4月 5.1%増、5月 11.1%増、6月 5.7%増となっている。



2 乗用車新規登録・届出台数



3 景気ウォッチャー調査（7月調査）[家計動向関連D I（現状判断理由の多数回答）]

来客数が減少している（乗用車販売店、スナック、競輪場等）、売上が減少している（百貨店、都市型ホテル）などの理由から「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた一方で、売上が横ばいである（スーパー、住関連専門店、通信会社）などの理由から「変わらない」とする回答もみられた。

	12年12月	13年1月	2	3	4	5	6	7
現状判断	46.3	44.0	38.3	37.5	38.3	41.0	36.4	33.6
先行き判断	44.9	50.0	42.4	37.9	47.3	48.9	40.4	37.3

（備考）巻末主要指標（9）の備考を参照のこと。

（2）設備投資の13年度計画は前年度実績を上回っている。

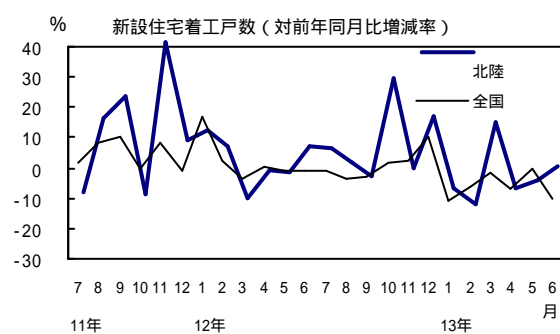
企業短期経済観測調査 [設備投資（6月調査）]（前年度比増減率、単位：％）

	12年度実績	13年度計画
全産業	15.1	3.1
製造業	20.3	6.1
非製造業	4.9	3.8

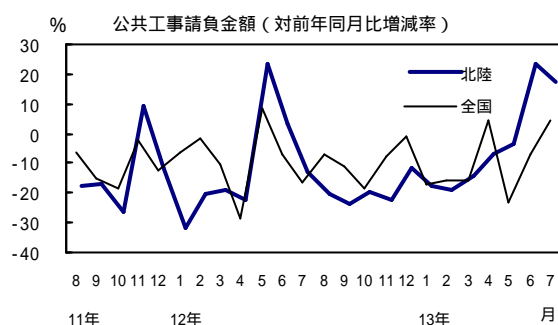
（備考）石油製品、電気・ガスを除く。

（3）住宅建設は減少している。

持家、分譲を中心に減少している。



(4) 公共投資はこのところ前年を上回っている。

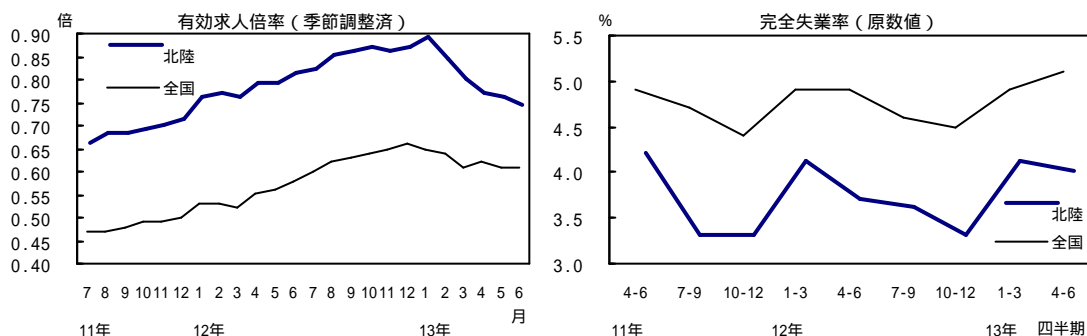


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は厳しい状況となっている。

1 有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は、求人数が減少し、求職者数が増加したことから低下している。完全失業率は、前年同期を上回っている。



2 景気ウォッチャー調査(7月調査)[雇用関連(現状判断理由の多数回答)]

広告の出稿媒体を絞り込んでいる(求人情報誌製作会社)、中途採用の求人広告が減少している(新聞社[求人広告])などの理由から「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた一方で、求人受理件数が前年並みである(学校[大学])などの理由から「変わらない」とする回答もみられた。

(2) 企業倒産は負債総額が増加している。

負債総額10億円以上の大型倒産が発生している。

	(前年同期(月)比増減率 単位:%)						
	12年7~9月	10~12	13年1~3月	4~6	13年5月	6	7
倒産件数	42.3	42.3	9.7	8.2	36.6	48.5	20.8
負債総額	62.7	105.0	7.7	14.2	46.1	97.2	58.3

景気ウォッチャー調査(7月調査)[合計DI(特徴的な判断理由)]

<現状>

- ・猛暑のため、エアコンがよく売れているが、それ以外の商品はさっぱり良くない。特にパソコンを中心とした情報商品は全く不振である(家電量販店)。
- ・食べ放題の専門店の増加により、ファミリー客が大幅に減少している(一般レストラン)。

<先行き>

- ・求人数は卸・小売業、サービス業でやや増加しているものの、管内の基幹産業である製造業、建設業での減少に歯止めがかからず、回復の見込みも立たない(職業安定所)。

	12年12月	13年1月	2	3	4	5	6	7
現状判断	45.9	41.8	36.8	35.3	36.8	37.1	33.3	32.4
先行き判断	45.4	46.7	39.7	36.3	44.2	43.8	37.9	36.7

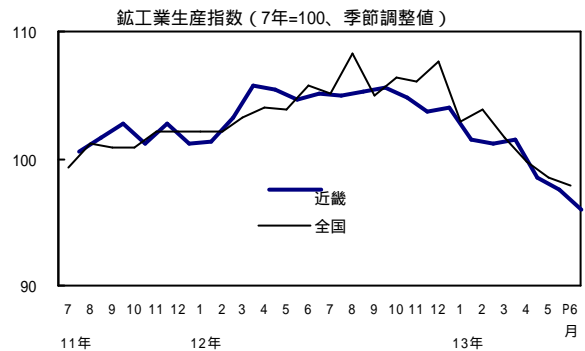
(7) 近畿

近畿地域では、景気は悪化している。これは、鉱工業生産が大幅に減少し、雇用情勢も厳しい状況となっており、また、業況判断が悪化し、設備投資の先行きについても減少が見込まれているからである。

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は大幅に減少している。

生産は、四半期に均してみると減少幅が拡大してきている。業種別にみると、電気機械では、IT関連需要の減速から生産が減少しており、特に半導体や通信・電子部品等での落ち込みが顕著になっている。窯業・土石でもIT関連のファインセラミックスが生産水準を下げている。一般機械では、半導体製造装置が設備投資見直しの動きを受け、生産は抑制気味である。また、繊維等の地場産業は需要の低迷や輸入品との競争から不振となっている。



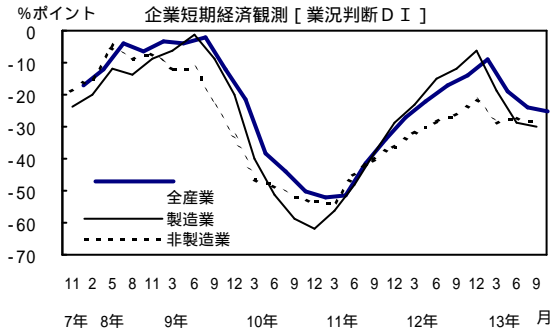
(備考) Pは速報値。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が拡大している。

1 企業短期経済観測調査 [業況判断DI]

2 景気ウォッチャー調査(7月調査) [企業動向関連(現状判断理由の多数回答)]

受注量が減少している(繊維工業)、手形の不渡り発生が増加している(金融業)などの理由から「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた一方で、受注が堅調である(経営コンサルタント)などの理由から「変わらない」とする回答もみられた。



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。9月は予測。

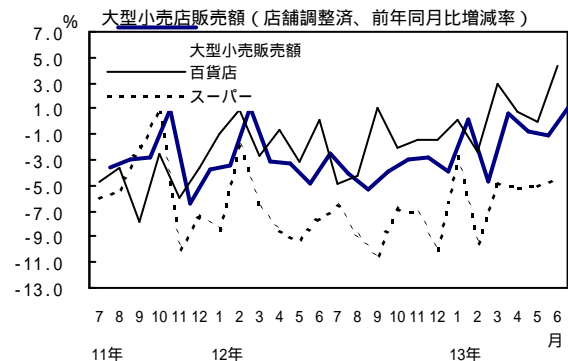
2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいの状態にある。

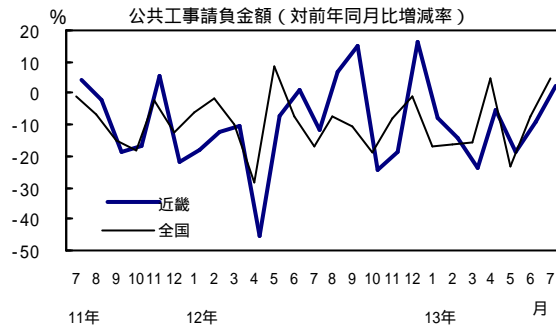
1 大型小売店販売額

百貨店は、中元ギフトの早期受注や猛暑の影響から季節商品に動きがあり、6月は高い伸びを示した。商品別にみると、家具・家電・家庭用品は不調なものの、婦人衣料や身の回り品は好調に推移している。

スーパーは、20か月連続で前年水準を下回る動きが続いている。商品別にみると、中元ギフトや猛暑の影響から夏物衣料やエアコン等の季節商品に動きがみられたものの、主力の飲食料品、衣料品が依然として不振であった。



(4) 公共投資は前年を下回っている。

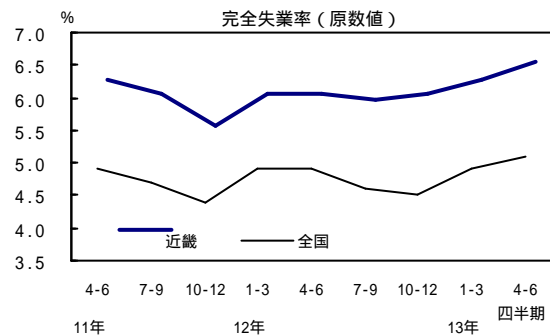
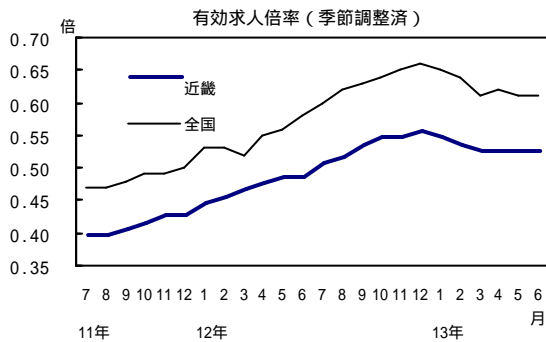


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は厳しい状況となっている。

1 有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は、このところ横ばいで推移している。完全失業率は、前年同期を上回り高い水準にある。



2 景気ウォッチャー調査 (7月調査) [雇用関連 (現状判断理由の多数回答)]

受注が減少している(人材派遣会社)などの理由から「やや悪くなっている」とする回答が多くみられ、また、求人が減少している(新聞社 [求人広告])などの理由から「悪くなっている」とする回答もみられた。

(2) 企業倒産は件数、負債総額ともに増加している。(前年同期(月)比増減率、単位: %)

	12年7~9月	10~12	13年1~3月	4~6	13年5月	6	7
倒産件数	24.1	14.7	5.1	3.6	4.3	3.8	6.0
負債総額	134.3	38.7	209.8	9.9	30.9	16.4	73.4

景気ウォッチャー調査 (7月調査) [合計DI (特徴的な判断理由)]

<現状>

- ・ユニバーサル・スタジオ・ジャパンの影響で宿泊者数が増加している(都市型ホテル)
- ・中高年求職者の希望が多い警備関連、建設の求人が大幅に減少しており、希望職種の仕事がないともらす求職者が多い。求人票の賃金も大幅な減少傾向である(職業安定所)

<先行き>

- ・異常に気温が高く、このままていくと秋の到来が遅くなり、秋物の商材が後る倒しになる(百貨店)

	12年12月	13年1月	2	3	4	5	6	7
現状判断	45.6	42.8	38.2	40.4	40.6	43.5	39.8	35.6
先行き判断	45.5	47.1	46.4	45.4	48.8	49.0	44.2	37.4

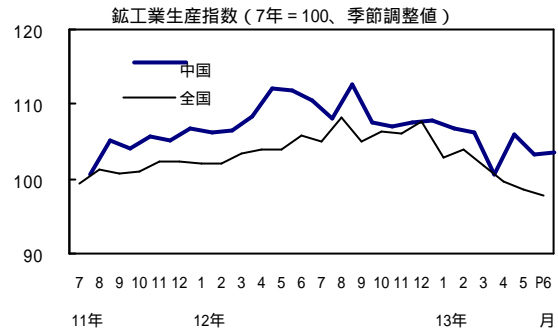
(8) 中国

中国地域では、景気は弱まっている。これは、鉱工業生産がさらに減少し、個人消費がやや弱含んでおり、また、雇用情勢が厳しい状況にあるからである。

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産はさらに減少している。

電気機械は、5、6月に携帯電話の生産などから増加しているものの、内外でのパソコン需要の減少などから、基調としては減少している。自動車は、一部メーカーの限定車生産が終了し、国内販売も不振が続いていることなどから減少傾向にある。鉄鋼、化学は、輸出の減少に加え、内需の鈍化などから、減産を強化する動きがみられ、弱含んでいる。一般機械は、引き続き低水準な生産で推移している。



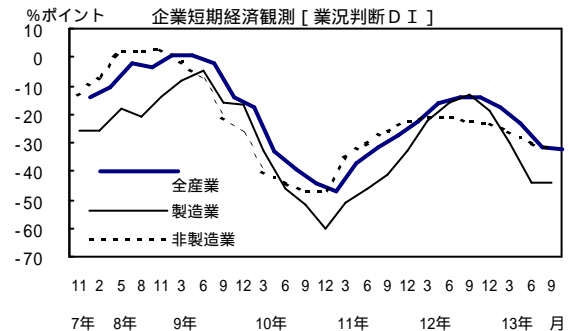
(備考) Pは速報値。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が拡大している。

1 企業短期経済観測調査 [業況判断DI]

2 景気ウォッチャー調査(7月調査)[企業動向関連(現状判断理由の多数回答)]

受注が落ちてきている(通信業) 顧客が減少してきている(コピーサービス業)などの理由から「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた一方で、取扱量に変化がない(輸送業)などの理由から「変わらない」とする回答もみられた。



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。9月は予測。

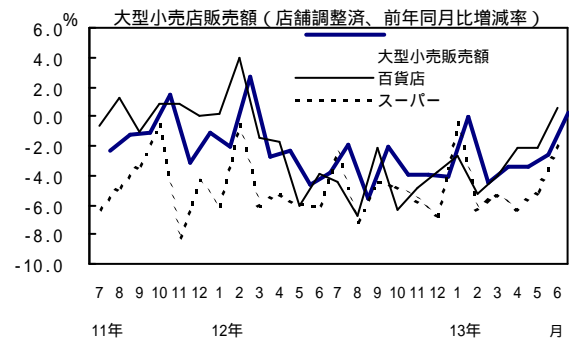
2. 需要の動向

(1) 個人消費はやや弱含んでいる。

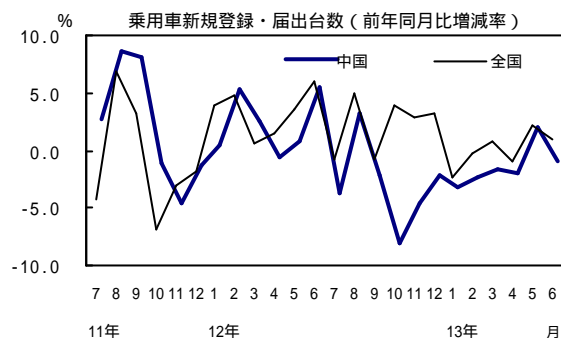
1 大型小売店販売額

百貨店は、5月は気温の上昇から夏物は好調であった。6月は気温が高めに推移したことから夏物が好調で、父の日ギフト、中元商戦にも動きがあり、既存店では0.6%増となった。足元でも夏物のセールが順調である。

スーパーは、化粧品などが好調に推移しているものの、主力の飲食料品が依然として不振であることから、前年を下回っている。



2 乗用車新規登録・届出台数



3 景気ウォッチャー調査（7月調査）[家計動向関連D I（現状判断理由の多数回答）]

来客数が少ない（乗用車販売店、テーマパーク、住宅販売会社）客単価が低下している（百貨店、コンビニ）などの理由から「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた一方で、売上が変わらない（コンビニ、乗用車販売店）などの理由から「変わらない」とする回答もみられた。

	12年12月	13年1月	2	3	4	5	6	7
現状判断	42.1	43.2	46.1	44.6	47.9	48.2	41.1	36.8
先行き判断	46.4	50.0	48.6	43.2	51.4	52.5	47.1	44.3

（備考）巻末主要指標（9）の備考を参照のこと。

（2）設備投資の13年度計画は前年度実績を下回っている。

企業短期経済観測調査 [設備投資（6月調査）]（前年度比増減率、単位：％）

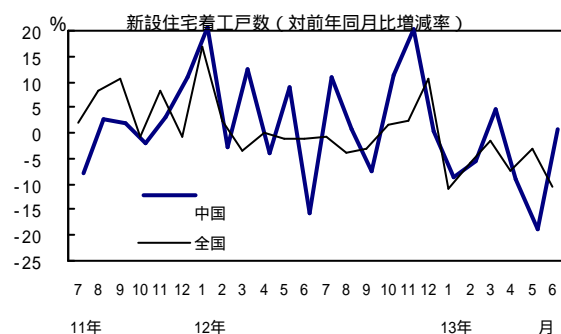
	12年度実績	13年度計画
全産業	0.1 (4.0)	8.2 (3.0)
製造業	13.0 (-)	2.7 (-)
非製造業	10.2 (-)	13.5 (-)

（備考）ソフトウェアを含む設備投資。

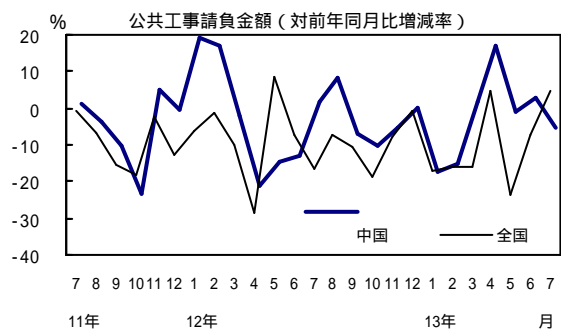
（ ）は前回（3月）調査比修正率。

（3）住宅建設は減少している。

持家、分譲を中心に前年を下回っていることから、減少している。



（4）公共投資は前年を下回っている。

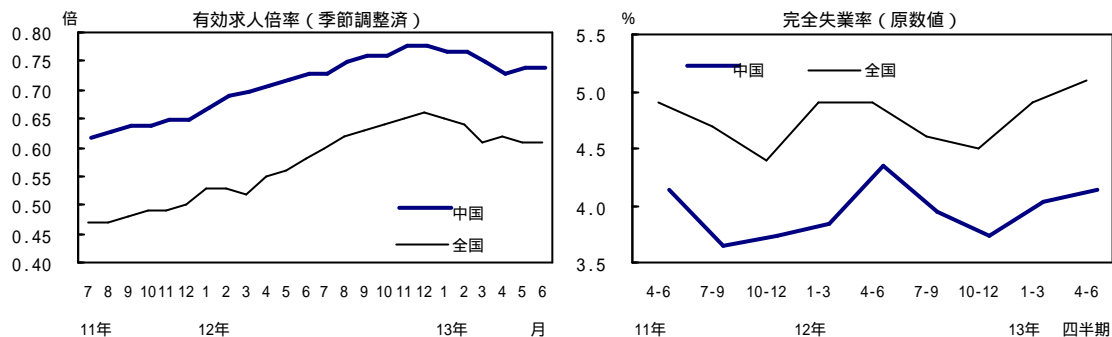


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は厳しい状況となっている。

1 有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は、このところ横ばいで推移している。完全失業率は、前年同期を下回っているものの、依然としてやや高い水準にある。



2 景気ウォッチャー調査 (7月調査) [雇用関連 (現状判断理由の多数回答)]

パート・アルバイト関係の広告が極めて低調である (新聞社 [求人広告])、求職者が増加している (職業安定所) などの理由から「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた一方で、採用に積極的な企業と消極的な企業に2極分化している (学校 [大学]) などの理由から「変わらない」とする回答もみられた。

(2) 企業倒産は件数、負債総額ともに増加している。

(前年同期(月)比増減率、単位: %)

	12年7-9月	10-12	13年1-3月	4-6	13年5月	6	7
倒産件数	25.8	13.0	4.2	7.9	42.3	24.1	15.8
負債総額	555.6	76.5	16.5	6.3	53.9	43.1	90.8

景気ウォッチャー調査 (7月調査) [合計DI (特徴的な判断理由)]

<現状>

- ・猛暑のため水着やパラソルが好調だが、主力であるヤングの商品が不振である (百貨店)
- ・有効求人倍率が最低水準となっているなか、特に製造業と建設業での停滞感が強まっている (職業安定所)

<先行き>

- ・新規顧客の電子部品メーカーの市況が依然として低迷しており、そこから受注量も大幅に落ち込む状態が想定される (窯業・土石製品製造業)

	12年12月	13年1月	2	3	4	5	6	7
現状判断	42.5	42.5	43.3	40.5	44.5	45.8	38.3	35.0
先行き判断	45.5	48.3	46.3	42.3	50.0	49.8	45.0	42.0

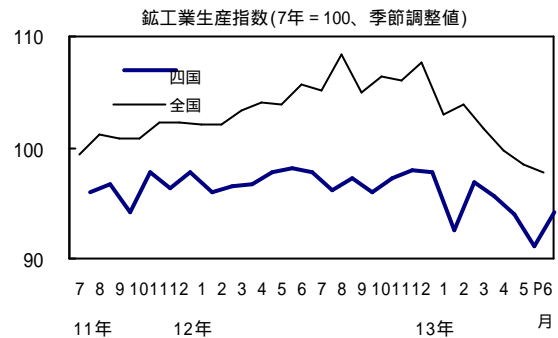
(9) 四国

四国地域では、景気は大幅に悪化している。これは、鉱工業生産がさらに減少し、個人消費は弱含んでおり、雇用情勢も厳しさを増しているからである。

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産はさらに減少している。

電気機械は、液晶関連など一部で高操業を続けているものの、磁気ディスク、半導体集積回路などの不振により減少が続いている。化学は、IT関連の需要の鈍化が懸念されているものの高水準で推移している。紙・パルプは、おおむね横ばいで推移している。一般機械は、自動車向けやパソコン向けの玉軸受けの需要低迷などから大幅に減少している。繊維工業も依然として低い水準にある。



(備考) Pは速報値。

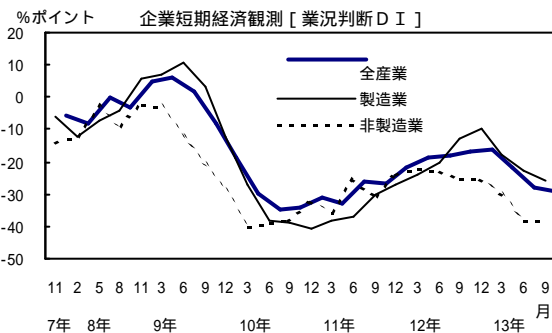
(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が拡大している。

1 企業短期経済観測調査 [業況判断DI]

2 景気ウォッチャー調査 (7月調査) [企業動向

関連 (現状判断理由の多数回答)]

新しい依頼がない (電気機械器具製造業)、荷動きが非常に悪い (輸送業) などの理由から「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた一方で、鍋底状態が続いている (家具製造業) などの理由から「変わらない」という回答もみられた。



(備考) 「良い」 - 「悪い」回答者数構成比。9月は予測。

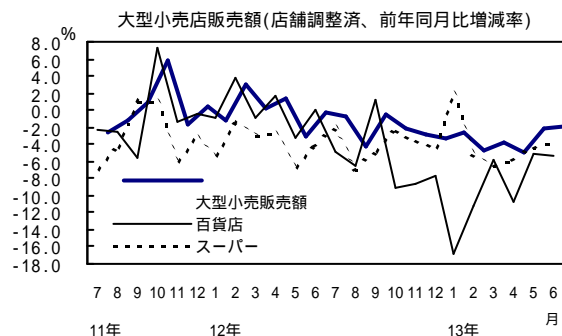
2. 需要の動向

(1) 個人消費は弱含んでいる。

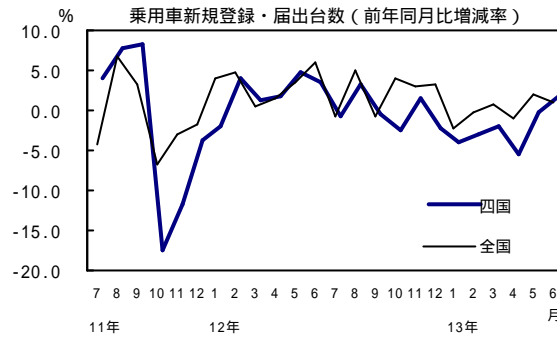
1 大型小売店販売額

百貨店は、セール効果や、ギフト関連で一部に動きがみられるものの、紳士服を始め、主力の衣料品を中心にほとんどの品目で前年割れが続いている。

スーパーは、猛暑により清涼飲料水やエアコンなど季節商品に動きがみられたが、全体的には飲食料品が低調であったほか家電製品の不振などが続き、ほとんどの品目で前年割れが続いている。



2 乗用車新規登録・届出台数



3 景気ウォッチャー調査（7月調査）[家計動向関連D I（現状判断理由の多数回答）]

売上が減少している（商店街、一般小売店〔菓子〕観光名所）来客数に変化がみられない（乗用車販売店、観光名所）などの理由から「変わらない」とする回答が多くみられた一方で、人通りが少ない（衣料品専門店、タクシー運転手）単価が低い（一般小売店〔生花〕衣料品専門店）などの理由から「やや悪くなっている」とする回答も多くみられた。

	12年12月	13年1月	2	3	4	5	6	7
現状判断	40.5	36.7	38.9	41.5	39.8	40.8	41.3	34.7
先行き判断	45.2	45.5	46.4	41.5	48.1	47.3	45.5	36.6

（備考）巻末主要指標（9）の備考を参照のこと。

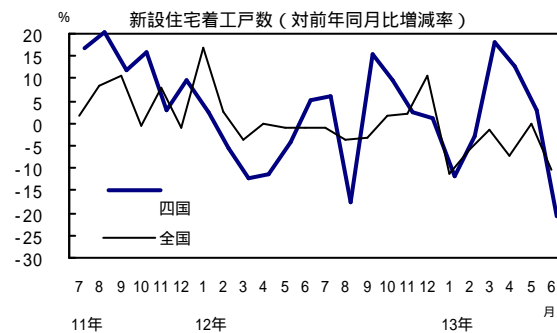
（2）設備投資の13年度計画は前年度実績を下回っている。

企業短期経済観測調査〔設備投資（6月調査）〕（前年度比増減率、単位：％）

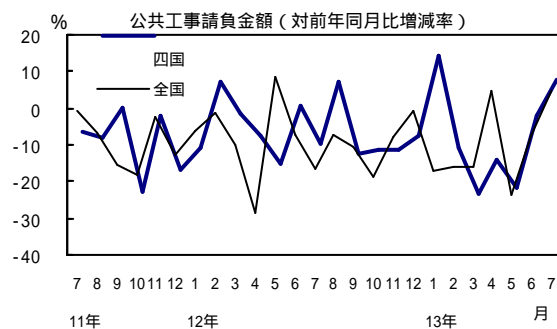
	12年度実績	13年度計画
全産業	6.9	4.6
製造業	1.1	8.5
非製造業	11.0	12.3

（3）住宅建設は減少している。

4月は貸家、分譲の増加により前年を上回ったものの、全体としては減少している。



（4）公共投資は前年を下回っている。

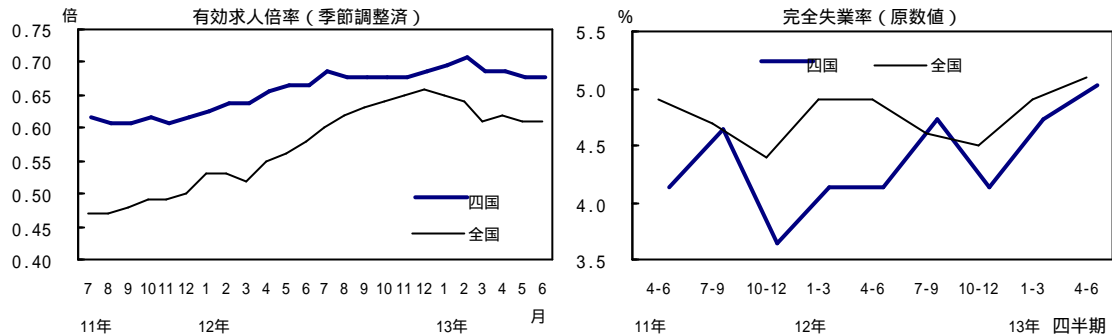


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は厳しさを増している。

1 有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率はこのところ横ばいで推移しており、完全失業率は前年同期を大幅に上回っている。



2 景気ウォッチャー調査（7月調査）[雇用関連（現状判断理由の多数回答）]

低位で安定している（新聞社〔求人広告〕）などの理由から「変わらない」とする回答が多くみられた一方で、派遣の需要が減少している（人材派遣会社）などの理由から「やや悪くなっている」とする回答も多くみられた。

(2) 企業倒産は件数、負債総額ともに減少している。

（前年同期（月）比増減率、単位：％）

	12年7~9月	10~12	13年1~3月	4~6	13年5月	6	7
倒産件数	14.8	11.8	12.0	10.6	0.0	17.3	37.0
負債総額	438.5	167.9	317.9	17.2	22.9	46.3	80.4

景気ウォッチャー調査（7月調査）[合計DI（特徴的な判断理由）]

<現状>

- ・例年にない猛暑に見舞われ、エアコン、冷蔵庫の売上がかなり増加している（家電量販店）
- ・携帯端末の売行きが、非常に鈍化している（通信会社）

<先行き>

- ・先行き3か月の予約状況が非常に低調である（都市型ホテル）

	12年12月	13年1月	2	3	4	5	6	7
現状判断	40.8	38.0	39.4	39.9	38.2	39.5	39.2	34.9
先行き判断	44.3	46.1	46.2	42.0	46.2	46.8	43.0	36.5

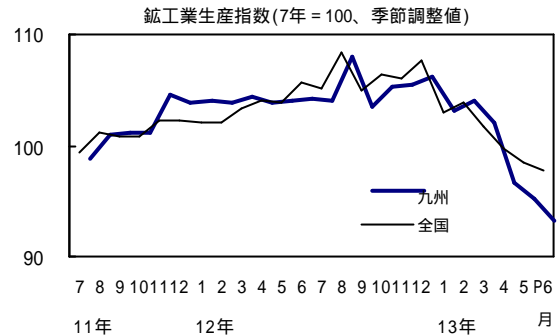
(10)九州

九州地域では、景気は悪化している。これは、鉱工業生産は大幅に減少し、設備投資の先行きについても減少が見込まれており、雇用情勢も厳しい状況となっているからである。

1.生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は大幅に減少している。

IT需要の減少や世界経済の減速の影響を受け、ICなどの電気機械や、ファインセラミックスなどの窯業・土石が大幅に減少している。鉄鋼は、輸出の減少が続き低迷している。自動車は、北米向け輸出が好調であるほか、他地域から生産移管されるなど、引き続き高操業を続けている。しかし、自動車の好調さも他のマイナス要因に大きく打ち消され、全体では大幅に減少している。



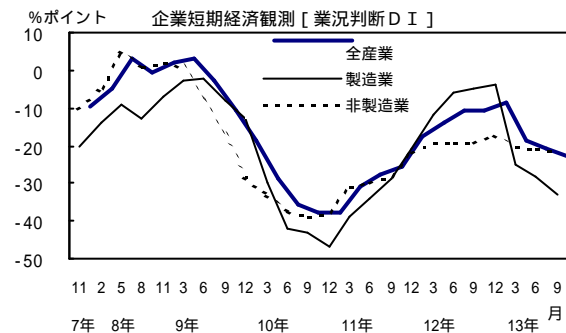
(備考) Pは速報値。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が拡大している。

1 企業短期経済観測調査 [業況判断DI]

2 景気ウォッチャー調査(7月調査)[企業動向関連(現状判断理由の多数回答)]

業者間の競争が激しい(建設業)、空室は埋まるが単価は下落している(不動産業)などの理由から「変わらない」とする回答が多くみられた一方で、利益が見込めないものが多い(建設業)などの理由から「やや悪くなっている」とする回答もみられた。



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。9月は予測。

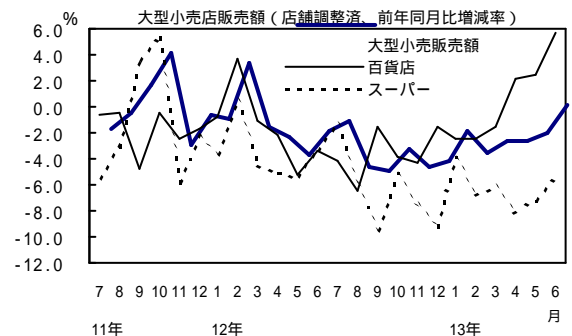
2.需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいの状態にある。

1 大型小売店販売額

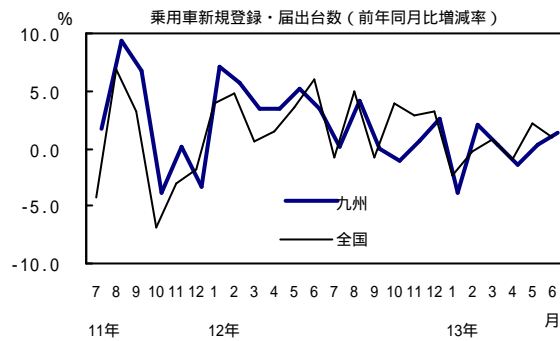
百貨店では、一部の商品に動きの鈍い物があったものの、身の回り品を中心に、衣料品、食料品など全体的に好調に推移しており、セールや中元ギフトの前倒しもあり、既存店では4～6月で3.3%増となった。ただし、全店舗では3.7%減であり、小倉、黒崎そごうの閉店の影響がみられる。

スーパーでは、夏物商品に動きはみられたものの、ほとんどの商品は低調に推移し、また低価格化による客単価の低下などにより、売上の減少が続いている。



(備考) 沖縄を含む。

2 乗用車新規登録・届出台数



3 景気ウォッチャー調査（7月調査）[家計動向関連D I（現状判断理由の多数回答）]

売上が減少している（家電量販店、観光名所、パチンコ店）、来客数が少ない（観光名所、住宅販売会社）などの理由から「変わらない」とする回答が多くみられた一方で、売上が悪い（一般小売店〔鮮魚〕百貨店、スーパー等）などの理由から「やや悪くなっている」とする回答もみられた。

	12年12月	13年1月	2	3	4	5	6	7
現状判断	44.3	40.4	39.5	42.2	42.9	45.2	43.8	40.7
先行き判断	42.9	42.6	45.5	41.5	51.0	51.3	47.3	39.5

（備考）巻末主要指標（9）の備考を参照のこと。

（2）設備投資の13年度計画は前年度実績を下回っている。

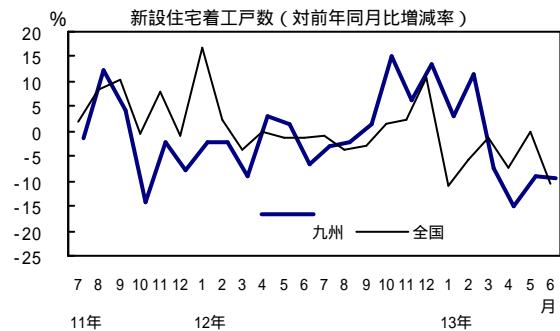
企業短期経済観測調査〔設備投資（6月調査）〕（前年度比増減率、単位：％）

	12年度実績	13年度計画
全産業	7.9（ 2.5）	8.3（ 0.8）
製造業	18.0（ 0.5）	11.9（ 1.0）
非製造業	3.8（ 3.4）	6.6（ 1.6）

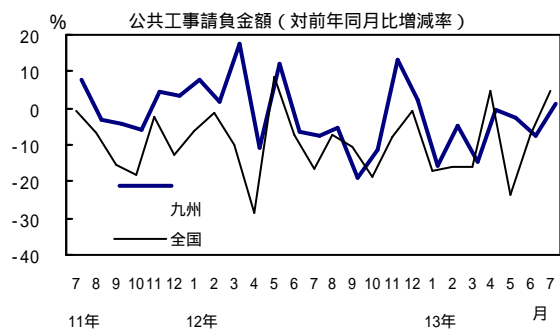
（備考）（ ）は前回（3月）調査比修正率。

（3）住宅建設は減少している。

分譲が大幅に前年を下回り、持家、貸家も減少している。



（4）公共投資は前年を下回っている。

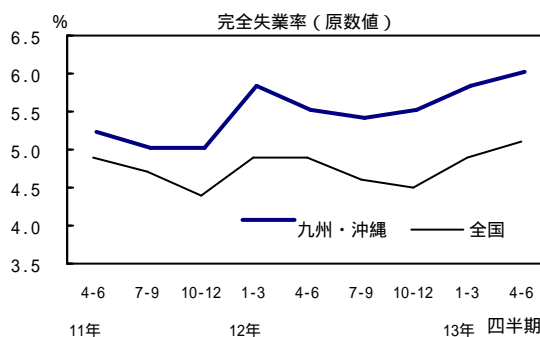
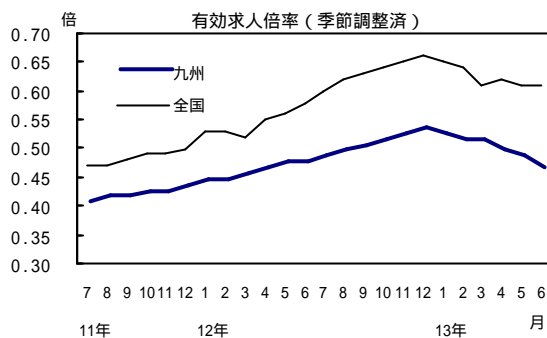


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は厳しい状況となっている。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は低下しており、完全失業率は前年同期を上回り依然として高い水準にある。



景気ウォッチャー調査 (7月調査) [雇用関連 (現状判断理由の多数回答)]

求人が冷え込んでいる (人材派遣会社)、就職の決まらない人の派遣登録が増えてきている (人材派遣会社) などの理由から「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた一方で、求人がパートやアルバイトのみである (学校 [専門学校]) などの理由から「変わらない」とする回答もみられた。

(2) 企業倒産は件数、負債総額ともに減少している。

(前年同期(月)比増減率 単位: %)

	12年7-9月	10-12	13年1-3月	4-6	13年5月	6	7
倒産件数	13.7	8.7	11.7	14.5	2.0	20.1	16.0
負債総額	109.0	46.2	390.1	61.5	87.2	89.2	61.5

景気ウォッチャー調査 (7月調査) [合計DI (特徴的な判断理由)]

<現状>

- ・今年の猛暑は例年になく厳しく、当商店街では空調設備が悪いために来客数が減少している (商店街)
- ・半導体関係の仕事は異常な落ち込みが続いており、今後も見通しが立たない (電気機械器具製造業)

<先行き>

- ・コンビニ間の競争激化は変わらず、今後も淘汰されている (コンビニ)

	12年12月	13年1月	2	3	4	5	6	7
現状判断	45.2	40.9	40.2	40.5	42.1	43.7	42.4	38.5
先行き判断	44.9	44.9	44.5	41.4	49.3	50.6	45.9	37.1

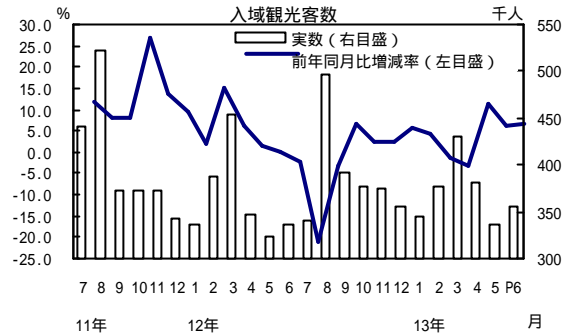
(11) 沖 縄

沖縄地域では、景気はおおむね横ばいの状態にある。これは、主力の観光は増加傾向にあり、住宅建設も増加傾向にあるものの、個人消費がおおむね横ばいの状態にあり、設備投資の先行きについても大幅な減少が見込まれているからである。

1. 観光及び企業動向

(1) 観光は増加傾向である。

入域観光客数は、前年のサミット開催前の航空便数減便の反動増や、格安航空運賃の拡充による需要喚起、好調な修学旅行などの要因により、全体では4月9.8%増、5月4.4%増、6月5.2%増と3か月連続で前年を上回っている。6月の主要ホテルの客室稼働率は、那覇市内ホテル、リゾートホテルとも前年を上回っている。



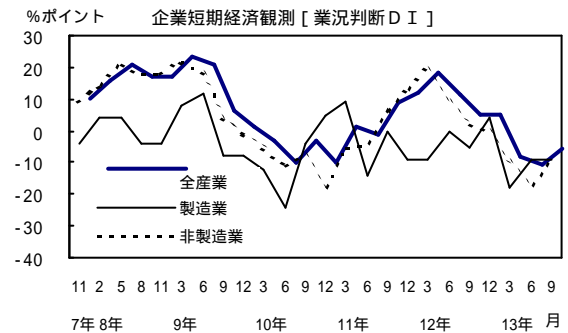
(備考) Pは推定値。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が拡大している。

1 企業短期経済観測調査 [業況判断DI]

2 景気ウォッチャー調査 (7月調査)[企業動向関連 (現状判断理由の多数回答)]

物量が増加している (輸送業) などの理由から「良くなっている」とする回答や、受注が増えている (建設業) などの理由から「やや良くなっている」とする回答が多くみられた一方で、高額な案件に中止もしくは延期の要請が出ている (通信業) などの理由から「悪くなっている」とする回答も多くみられた。



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。9月は予測

2. 需要の動向

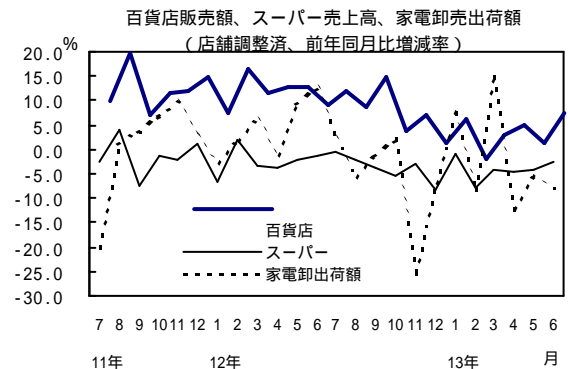
(1) 個人消費はおおむね横ばいの状態にある。

1 百貨店販売額、スーパー売上高、家電卸出荷額

百貨店は、衣料品が主力の婦人服の好調により前年を上回ったものの、食料品、雑貨が前年を下回り、全体では4~6月期でほぼ前年並みとなっている。

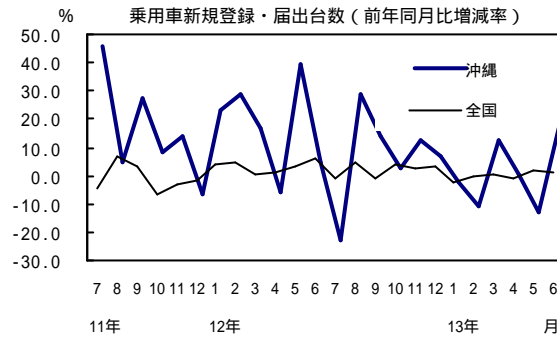
スーパーは、新規大型店の出店による競争の激化や衣料品を中心に単価低下が続き、既存店では減少が続いているが、全店ベースでは前年を上回っている。

家電は、猛暑の影響によりエアコンが好調なもの、冷蔵庫、洗濯機は前年を下回り、全体では前年を下回っている。



(備考)百貨店販売額、家電出荷額は中経銀行調べ。スーパー売上高は日本銀行那覇支店調べ。

2 乗用車新規登録・届出台数



3 景気ウォッチャー調査（7月調査）[家計動向関連D I（現状判断理由の多数回答）]

客の無駄なものは買わない状況が続いている（スーパー、衣料品専門店）客単価が低下している（コンビニ、都市型ホテル）などの理由から「変わらない」とする回答が多くみられた一方で、小規模店では厳しい状況が続いている（商店街）などの理由から「悪くなっている」とする回答もみられた。

	12年12月	13年1月	2	3	4	5	6	7
現状判断	41.7	35.0	35.0	44.2	36.4	40.0	48.1	44.6
先行き判断	50.0	48.3	48.3	42.3	45.5	51.7	46.2	35.7

（備考）巻末主要指標（9）の備考を参照のこと。

（2）設備投資の13年度計画は前年度実績を大幅に下回っている。

企業短期経済観測調査 [設備投資（6月調査）]
食料品で前年度の工場移転投資の反動や、大型小売店の新規出店が一段落するほか、運輸・倉庫で前年度の物流センターや倉庫建築投資の反動もあり、全産業で前年度実績を大幅に下回る計画となっている。

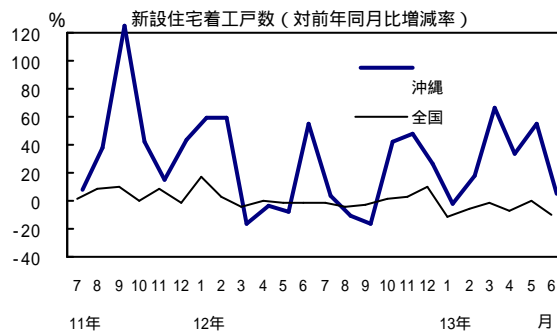
（前年度比増減率、単位：%）

	12年度実績	13年度計画
全産業	14.3(6.9)	20.3(3.0)
製造業	7.7(0.2)	34.3(9.0)
非製造業	15.7(8.4)	17.7(5.1)

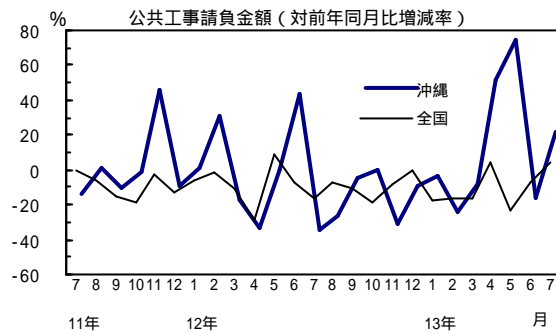
（備考）石油、電力を除く。（ ）は前回（3月）調査比修正率。

（3）住宅建設は増加傾向で推移している。

6月は前年を下回ったものの、貸家は基調としては安定して推移している。



- (4) 公共投資はこのところ前年を上回っている。
 国の大型発注があり、このところ前年を上回っている。

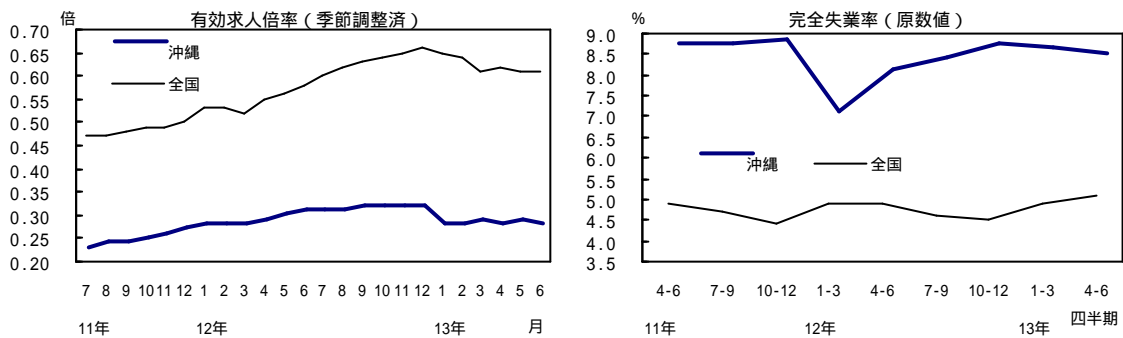


3. 雇用情勢等

- (1) 雇用情勢は厳しい状況となっている。

1 有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は、このところ横ばいで推移しているが、完全失業率は、前年同期を上回っている。



2 景気ウォッチャー調査（7月調査）[雇用関連（現状判断理由の多数回答）]

建設業界の仕事が減少している（学校〔専門学校〕）、求人広告数が減少している（職業安定所）などの理由から「やや悪くなっている」とする回答がみられた。

- (2) 企業倒産は負債総額が増加している。

(前年同期(月)比増減率、単位：%)

	12年7-9月	10-12	13年1-3月	4-6	13年5月	6	7
倒産件数	95.0	0.0	0.0	16.7	27.3	0.0	44.4
負債総額	71.2	57.7	30.4	100.1	381.1	37.8	25.7

景気ウォッチャー調査（7月調査）[合計DI（特徴的な判断理由）]

<現状>

- ・平成12年度はサミット開催に伴い、来客数が規制されたため減少したが、今月の来客数は平成11年度の同月比と同水準を確保している（観光名所）
- ・夏休みに向けて期待していたが、観光客が中北部方面へ流れているようで、那覇市内は閑散としている（高級レストラン）

<先行き>

- ・他業種に比べ、IT関連に関する仕事はやや潤っているようであったが、ここ2、3か月の間にかなり少なくなっている（学校〔専門学校〕）

	12年12月	13年1月	2	3	4	5	6	7
現状判断	44.0	38.1	36.4	40.8	40.6	41.3	42.9	44.3
先行き判断	53.6	47.6	50.0	44.7	50.0	53.3	45.2	38.6

地域経済動向における各地域の景況の推移

	12年 2月	4月	8月	11月	13年 2月	5月	8月
北海道	緩やかな改善が続いている	緩やかな改善が続いている	足踏み状態	足踏み状態	足踏み状態	弱まっている	大幅に悪化している
東北	改善が続いている	改善が続いている	改善が続いている	改善が続いている	改善が続いている	弱含んでいる	大幅に悪化している
北関東	緩やかな改善が続いている	緩やかな改善が続いている	緩やかな改善が続いている	緩やかな改善が続いている	改善のテンポが緩やかになっている	弱含んでいる	悪化している
南関東	緩やかな改善が続いている	緩やかな改善が続いている	緩やかな改善が続いている	緩やかな改善が続いている	改善のテンポが緩やかになっている	弱含んでいる	悪化している
東海	改善が続いている	改善が続いている	改善が続いている	改善が続いている	改善が続いている	足踏み状態	弱まっている
北陸	このところやや改善	このところやや改善	緩やかな改善が続いている	緩やかな改善が続いている	緩やかな改善が続いている	弱含んでいる	悪化している
近畿	このところやや改善	緩やかな改善が続いている	緩やかな改善が続いている	緩やかな改善が続いている	改善のテンポが緩やかになっている	弱含んでいる	悪化している
中国	改善の動きが強まっている	改善の動きが強まっている	改善の動きが強まっている	改善が続いている	改善のテンポが緩やかになっている	弱含んでいる	弱まっている
四国	緩やかな改善が続いている	緩やかな改善が続いている	緩やかな改善が続いている	足踏み状態	足踏み状態	弱まっている	大幅に悪化している
九州	緩やかな改善が続いている	改善が続いている	改善が続いている	改善が続いている	改善が続いている	弱含んでいる	悪化している
沖縄	回復傾向にある	回復している	回復している	回復している	回復している	緩やかな改善が続いている	おおむね横ばい

(備考) 改善が続いている は上方修正。

足踏み状態 は下方修正。